

# 外国人留学生大学院受験案内

相模国際学院



大学院とは？ 大学卒業後の進路の一つ

大学卒業後、大学院に進学したいという学生や社会人が増加しています。理系では学生のほとんどが大学院に進学して、さらに高度な専門知識を取得するほか、近年話題となっている法科大学院（ロースクール）など、専門職と密接な関連のある大学院も増えてきました。留学生で大学院に進学する人も増えています。

大学院の種類 一般の大学院・専門職大学院

大学院には、研究を深める一般の大学院と、高度専門的職業人を育てる専門職大学院の2つがあります。

大学院は、これまで大学の延長として研究者の養成を目的としてきました。しかし、国際化や情報化がめざましい勢いで進み、社会の仕組みや企業の在り方が複雑化する中であって、さまざまな分野でより高度な専門知識を持った人材が必要とされています。そうした時代のニーズに応じて、専門性の高い職業人を育てるための場、また社会人が働きながら高度な専門知識を深める場として多様化しています。現在、大学院の種類は主に2つあり、学部卒業生がさらに専門分野を深く追究して研究に取り組む一般の大学院と、専門的知識を備えた実務家を養成する「専門職大学院」に大別されます。

研究か、実務者養成か

教育法第99条では次のように規定されています。

第99条 大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、**その深奥をきわめ**、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、**文化の進展に寄与**することを目的とする。

2 大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とするものは、専門職大学院とする。

専門職大学院の目的には、「その深奥をきわめ」、「文化の進展に寄与する」の語が入っていません。また専門職大学院は修士課程のみで博士課程（後期課程）への進学を予定していません。

研究者の養成に主眼を置く、一般の大学院

学部の研究をさらに深め、専門分野の研究に取り組む大学院です。一般的には修士課程が

2年、博士課程が5年あり、博士課程は前期2年・後期3年の区分制と5年一貫制の2パターンがあります。修了後はそのまま研究者の道を目指す人もいれば、専門知識を生かして企業に就職する人もいます。

#### 実社会で活かす高度な能力を磨く、専門職大学院

社会的・国際的に活躍できる高度専門職業人養成のニーズの高まりに応じて、2003年に専門職大学院が設置されました。これはスペシャリストの養成機関であり、高度専門職業人として求められる理論と実務の両方を学びます。事例研究・現地調査などの実践的な教育や、実務家の教員が一定数在籍することが特徴で、さらに修了すると国家資格の受験資格が取得できる大学院もあり、具体的なキャリア形成につながります。修士論文の代わりに修得単位数を多くしたり、レポートや研究成果報告書などを課したりするなどしています。

- ① 法曹養成（法科大学院）：弁護士、裁判官、検事など法曹界のプロの養成。
- ② 会計：会計のプロフェッショナルの養成。
- ③ 教員養成（教職大学院）：高度な専門性と実践的な指導力を備えた教員の養成。
- ④ ビジネス・MOT：経営分野のリーダーの養成。
- ⑤ 臨床心理：カウンセラーなど、人間の心の問題へ専門的援助ができる人材の養成。
- ⑥ その他の専門職大学院：この他に、公衆衛生分野や、公共政策分野、情報分野、知的財産分野など幅広い分野で専門職大学院が設置されています。

#### 志望校を選ぶ

大学院は大学より高度な研究を極める機関です。したがって「研究内容」が決め手になります。つまり自分のやりたい研究に取り組むのに、適した環境の大学院を選ぶことが一番大切です。

大学の受験校を決定する時のような、「偏差値」や「大学のブランド」で志望校を決定するわけではありません。研究があってこそその志望校ですから、いくら筆記試験で高得点を取得しても、研究内容との関連性がなければ、研究計画書の審査や口頭試問で、落とされてしまいます。

自分のやりたい研究内容と方向性の合致する教授や教員が在籍する大学院を志望校とするのが、ベストな選択です。

教授や講師がどのような研究を行っているかは、大学院の資料や、教授が過去に発表した論文から辿って調べてみましょう。

#### 試験の内容

試験には、一般的には、語学、専門知識、研究計画書、面接などがあります。

大学院は研究センターですから、**研究計画書**が重視されます。専門分野の知識を深めたいのでこれからの研究の方向性を決め、大学院に入学してから行う研究について詳しく

記述します。具体的には研究のテーマ、目的、方法、参考文献などを書きます。自分のやりたい研究が志望の大学院で進められるかどうか重要です。

大学院で行われている研究と方向性の違う研究内容を書いても、なぜこの大学院を選んだのか、ということになりかねません。どの大学院の教員がどのような研究を行っているかは、大学院サイトやその教員が出している著書や論文の内容から調べておきます。特に著書や論文の参考文献を調べれば、同じような研究を行っている大学院や教員が芋づる式にわかりますから、チェックして起きましょう。

**面接試験**は基本的に事前に提出した研究計画書に沿って 質問が行われます。

よく質問される項目として、「学部時代の専攻内容」「卒論の内容」「大学院で希望する研究内容」「志望動機」「大学院卒業後の進路」等が挙げられます。特に「大学院で希望する研究内容」については研究計画や 方向性に至るまで深く質問される可能性が高いので、きちんと 回答できるように準備しておきましょう。

**語学能力**も重要です。大学院で高度な研究に取り組むためには、論文を読みこなす語学能力が求められます。また一般の大学院では修士論文を課することが普通で、論文執筆のためにはさらに高い能力が必要です。留学生の場合は日本語能力 N1（レベル）が求められます。独自に試験を行う場合と、JLPT の試験結果を求める場合があります。

日本語のほかに英語の試験を行う場合もあります。これも独自に試験を行う場合と、TOEFL など英語の外部試験の結果を求める場合があります。

高い**専門知識**も必要です。大学院に入学すると、研究室と呼ばれるスペースで、より専門性の高い研究に取り組むこととなります。大学のゼミと比較しても、少人数制であり、教授から直に指導を受けること になりますので、より高度な研究に取り組める環境が整っていると言えるでしょう。その分、大学の時よりも、読解する文献や実践する研究方法は 多岐にわたるため、高い専門知識が要求されます。その知識をはかる機会として設けられているのが、大学院入試なのです。

## 試験・入学の時期

入学時期はたいてい4月（まれに秋入学を採用している場合もあります）で、そのための入学試験は秋に行う場合と、春2～3月に行う場合があります。合格後、短期間のうちに入学金・授業料納付、入学手続きをしなければなりませんので、お金の準備もしておく必要があります。

## 出願準備

入学願書、卒業証明書、志望理由書などの出願書類をそろえます。大学院入試の提出書類でポイントとなるのは「研究計画書」です。研究したい分野の現況や背景を踏まえた上で、取り組むテーマの目的や成果、研究方法などについて述べます。指導教員の指示を仰いだり、書籍を参考にしたりしながら必ず早めに取り組みましょう。